

問 62 から問 92 までは『日本書紀』に関する問題
です。

問 62

以下の文章を読んで【ア】【イ】に入る言葉の組
み合わせとして正しいものを選んでくださ
い。

『続日本紀』の養老4年(【ア】)5月21日の
記事に、

是(こ)れより先(さき)、一品舎人親王(い
っぽんとねりのみこ)、勅(みことのり)
を奉じて日本紀を修(あ)む。是(ここ)に
至り功(こう)成りて奏上す。紀三十卷、
【イ】一卷。

とあるように、ここに『日本書紀』は完成し、
元正天皇に呈上されたのでした。

1. ア、720 イ、系図
2. ア、712 イ、系図
3. ア、720 イ、図譜
4. ア、712 イ、図譜

➡ 『神話のおへそ『日本書紀』編』26ページ「国
家事業として公式に編纂された歴史書」

正解 1

問 63

以下の文章を読んで【ア】【イ】に入る言葉の組み合わせとして正しいものを選んでください。

『日本書紀』の巻一は神代上、巻二は神代下にあてられていて、通常この両巻を「神代巻（じんだいかん、かみよのまき、かみのよのまき）」と呼んでいます。この部分は全部で十一段に分かれています。一～三段を一つにまとめ、計九章とし、それぞれに名称を付けることが長く行われてきました。この考え方は、一条兼良『日本書紀纂疏』など中世の注釈書から始まり、江戸時代の【ア】の『日本書紀伝』などによって定着し、明治以降も【イ】の『日本書紀通釈』や『国史大系』本でも採用されています。

1. ア、鈴木重胤 イ、飯田武郷
2. ア、飯田武郷 イ、鈴木重胤
3. ア、鈴木重胤 イ、矢野玄道
4. ア、矢野玄道 イ、飯田武郷

➡ 『神話のおへそ『日本書紀』編』40 ページ「神道古典としての『日本書紀』」

正解 1

問 64

「神世七代章」の一書の内容について書かれた以下の文章を読んで【ア】【イ】に入る言葉の組み合わせとして正しいものを選んでください。

『古事記』は、「天地の初発の時、【ア】に成りませる神の名は…」と書き始められていて、すでに【ア】という世界が存在していて、そこに最初の神・天之御中主神、次いで高御産巢日神、神御産巢日神、いわゆる「造化三神」が現れたと書かれています。つまり、『日本書紀』と『古事記』では最初の神が違っているわけです。『古事記』では、最初から数えて六番目の神として「国之常立神」が現れています。なお、『古事記』の造化三神はこの段の第四の一書に【ア】に現れた神々として記されています。ただし『日本書紀』での表記は「天御中主【イ】」「高皇産霊【イ】」「神皇産霊【イ】」となっています。

1. ア、国土 イ、尊
2. ア、国土 イ、命
3. ア、高天原 イ、尊
4. ア、高天原 イ、命

➡ 『神話のおへそ『日本書紀』編』47 ページ「葦の生命力と「高天原」」

正解 3

「四神出生章」の一書の内容について書かれた以下の文章を読んで問 65 と問 66 の設問に答えてください。

第六の一書は、『古事記』とよく似た内容となっています。冒頭では、風の神・[ア]や、食物の神・倉稻魂神(うかのみたまのかみ)の誕生が記されています。最後に火の神・軻遇突智を生んで伊弉冉尊は亡くなり、伊弉諾尊は、火の神を斬り殺してしまいます。このときにも多くの神々が生まれます。伊弉諾尊は黄泉国を訪問し、地上へと戻って筑紫で[イ]をします。そこで枉津日神や[ウ]、「住吉三神」と「少童三神」が生まれ、最後に天照大神・月読尊・素戔鳴尊が誕生するということも、ほぼ『古事記』と一致しています。

問 65

[ア]に入る言葉として正しいものを選んでください。

1. 級長戸辺命(しなとべのみこと)
2. 甕速日神(みかのはやひのかみ)
3. 句句迺馳(くくのち)
4. 啼沢女命(なきさわめのみこと)

問 66

【イ】【ウ】に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを選んでください。

1. イ、潔斎 ウ、直日神
2. イ、潔斎 ウ、祓戸神(はらえどのかみ)
3. イ、禊祓 ウ、直日神
4. イ、禊祓 ウ、祓戸神

❖ 解 説 ❖

問 66 の「祓戸神」の祓戸とは、祓を行う場所のことで、そこで行われる祓をつかさどるのが祓戸神です。大祓詞に記されている瀬織津比売(せおりつひめ)、速開都(はやあきつ)比売、気吹戸主(いぶきどぬし)、速佐須良(はやさすら)比売の四神のことをいいます(公式テキスト⑥『日本の祭り』114 ページ「大祓詞」参照)。

➡ 『神話のおへそ『日本書紀』編』75 ページ「五穀と養蚕の起源」、84 ページ「【第六】」

問 65 正解 1 問 66 正解 3

問 67

「宝鏡開始章」の本文の内容とそれに関連して書かれた以下の文章を読んで【ア】【イ】に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを選んでください。

「その後、素戔鳴尊がなされた事は手がつけられないほどひどいものでした。天斑駒(あめのぶちこま)を田の中に放って田を荒らしたり、天照大神が【ア】の祭りをされようとするのを見て、その宮殿に密かに大便をされたりしました。

天照大神が【イ】いるのを見て、天斑駒の皮を剥(さかはぎには)いで、御殿の屋根に穴を開けて投げ入れられました。天照大神は驚かれ、梭(ひ)で御体を傷つけられました。これによってお怒りになり、天石窟に入って磐戸を閉じて籠ってしまわれました」

神々の中で至貴とされる天照大神も、神を祭る存在であり、天上世界における神祭りは、そのまま地上へもたらされ、天皇による宮中の祭りへとつながっていきます。その祭りの起源は、この天照大神の祭りにあると、我々の先祖は伝えてきたわけです。

1. ア、月次 イ、神衣(かむみそ)を織られて
2. ア、月次 イ、神酒(みき)を嘔まれて
3. ア、新嘗 イ、神衣を織られて
4. ア、新嘗 イ、神酒を嘔まれて

➡『神話のおへそ『日本書紀』編』101 ページ「第七段 本文」、107 ページ「さまざまな祭祀の起源」
正解 3

問 68

「宝鏡開始章」の一書の内容について書かれた以下の文章を読んで空欄【 】に入る言葉として正しいものを選んでください。

「天下は常に暗闇となり、昼夜の区別もつかなくなりました。そこで、八十万の神たちは天高市(あめのたけち)に集まって相談されました。高皇産霊の御子に思兼神という神がおられ、思慮深く知恵豊かでした。その神が思案して、『天照大神の御姿をかたどったものを作って、大神をお招きしましょう』と申されました。そこで、石凝姥(いしこりどめ)を鍛冶とし、天香山の金を採って日矛(ひほこ)を作らせました」

この一書では、これが【 】のご神体であると書かれています。

1. 石上神宮
2. 石上布都魂神社
3. 伊太祁曾神社
4. 日前神宮・國懸神宮

➡『神話のおへそ『日本書紀』編』102ページ「【一書(第一)】」、107ページ「さまざまな祭祀の起源」、122ページ「草薙劍」

正解 4

同じく「宝剣出現章」の一書の内容について書かれた以下の文章を読んで問 69 から問 71 までの設問に答えてください。

少彦名命が去られた後は、国の中のまだでき上がっていない所を、大己貴神お独りで巡り造られました。最後に、【ア】に着かれ、「今この国を治めているのは私だけである。私と共に天下を治めるべき者はいるだろうか」とおっしゃられました。すると、不思議な光が海を照らし、たちまちに浮かんで来るものがあり、「もし、私がいなければ、おまえはどうしてこの国を平定することができたでしょうか。私がいながらこそ、おまえはその大きな功績を立てることができたのだ」と言いました。大己貴神が「では、あなたはどなたですか」とお尋ねになると、「私はおまえの【イ】【ウ】である」と答えました。「今からどこに住むおつもりですか」とお尋ねになると、「私は三諸山に住もうと思う」と答えられました。そこで、宮をその地に造り、そこに住まわせられました。これが大三輪の神です。この神の御子が、甘茂君等(かものきみたち)や大三輪君等で、また、姫蹈躰(ひめたたら)五十鈴姫命です。または、事代主神が八尋熊罴(わに)に化して、三嶋溝織(みぞくい)姫の元へ通って、この姫を生まれたともいいます。この姫が【エ】のお后です。

問 69

【ア】に入る言葉として正しいものを選んでください。

1. 大和国 2. 日向国
3. 淡路国 4. 出雲国

問 70

【イ】【ウ】に入る言葉の組み合わせとして正しいものを選んでください。

1. イ、和魂 ウ、荒魂
2. イ、和魂 ウ、奇魂
3. イ、幸魂 ウ、荒魂
4. イ、幸魂 ウ、奇魂

問 71

【エ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

1. 神日本磐余彦火火出見天皇 (神武天皇)
2. 神渟名川耳天皇 (綏靖天皇)
3. 御間城入彦五十瓊殖天皇 (崇神天皇)
4. 活目入彦五十狭茅天皇 (垂仁天皇)

➡『神話のおへそ『日本書紀』編』119 ページ「【一書 (第六)】」、209 ページ「「秋津洲」「浦安の国」「虚空見つ日本の国」」、28 ページ「全三十巻の構成」

問 69 正解 4

問 70 正解 4

問 71 正解 1